

情報開示(ディスクロージャー)

あらゆるステークホルダーの理解促進のために、公正かつ適時・適切な情報開示に取り組んでいます。

2005年度の
課題・目標

新たな個人株主を増やすため、積極的な情報開示をすすめる

2005年度の
実績・進捗状況

個人投資家向け説明会の実施、個人投資家向けIRサイトの開設など、個人向けIRの拡充に注力

情報開示の考え方とこれまでの取り組み

大和証券グループでは2004年3月に「ディスクロージャー・ポリシー」を公表。これにのっとり、公正かつ適時・適切な情報開示に取り組んでいます。

投資判断にかかわる適正な情報開示は、株式市場の健全な運営のためのもっとも重要な要素です。当社は証券業に携わる企業として、他の上場企業の見本となるような情報開示の実現を目指し、取組みを強化しています。

また、「貯蓄から投資へ」という国民経済の基本的な流れを促すためにも、個人株主の拡大をIR上の重要な課題と考えてい

ディスクロージャー・ポリシー

当社は、株主・投資家、地域社会を始めとするあらゆるステークホルダーの当社に対する理解を促進し、その適正な評価のために、当グループに関する重要な情報(財務的・社会的・環境的側面の情報を含む。)の公正かつ適時・適切な開示を行います。

当社は、証券取引法、その他の法令及び当社の有価証券を上場している証券取引所の規則を遵守します。

当社は、内容的にも時間的にも公平な開示に努めます。

当社は、説明会、電話会議、インターネット、各種印刷物を始めとするさまざまな情報伝達手段を活用し、より多くの投資家の皆様にわかりやすい開示を行うよう努めます。

当社は、情報開示にあたって、常に証券市場を担う立場にあることを意識し、他の株式上場企業の模範となるよう努めます。

これらの精神を実現するために、当社はディスクロージャー規程を制定し、ディスクロージャー委員会の設置や当グループの情報開示の方法等を定めています。

ます。そのため、個人投資家向け説明会を積極的に開催するなど、個人投資家への情報開示にも努めています。2005年度には株主数が減少しましたが、これは株価の上昇に伴い個人株主の売却が増加したためと思われます。

情報開示の体制

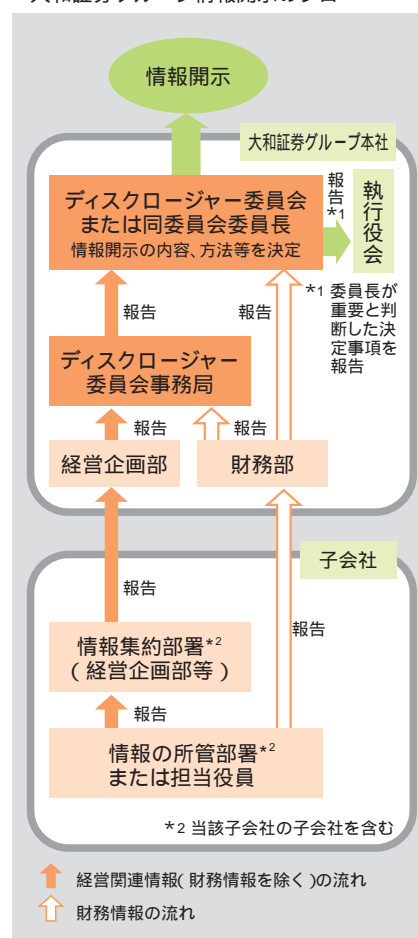
グループ本社では、「ディスクロージャー・ポリシー」の精神を実現するため「ディスクロージャー規程」を制定しています。同規程のもと、情報開示に関する最終的な意思決定は、執行役会の分科会である「ディスクロージャー委員会」が担っています。また、各グループ会社では、それぞれ「経営関連情報管理規程」を制定。グループ各社での情報収集と、グループ本社への報告が、確実に行なわれるための体制を整えています。

適時・適正かつ公正な情報開示

ステークホルダーに対し、経営関連情報を適時・適正に開示することが、もっとも重要であると考えています。

情報開示にあたっては、プレスリリースをはじめ、ホームページや印刷物、説明会など、さまざまな方法を活用し、よりわかりやすく、またより多くのステークホルダーに対して公正な開示が行なわれるよう努めています。

大和証券グループ情報開示のフロー





ニューヨークでのIR説明会

■ 財務的、社会的、環境的側面を意識した情報開示

「ディスクロージャー・ポリシー」においては、株主・投資家、地域社会をはじめとするあらゆるステークホルダーを対象に、財務的、社会的、環境的側面の情報を開示すると定めています。こうした方針のもと、本『持続可能性報告書』の開示内容についても「ディスクロージャー委員会」において、内容が適正であるかを詳細に確認しました。

こうした情報開示への取組みが評価され、大和証券グループの『持続可能性報告書2005』が、「第9回 環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門」で持続可能性報告大賞(環境大臣賞)を受賞しました。

■ ネガティブ情報の開示

ネガティブ情報の開示に対する姿勢は、企業の評価に大きな影響を及ぼすものと考えられます。大和証券グループでは、ステークホルダーからの信頼が当社グループの持続的成長につながるとの考えから、ネガティブ情報についても、適時・適正な開示を行なうよう努めています。

大和証券グループの情報開示ツール



今後の課題と2006年度の目標

情報開示に対する役職員の意識をさらに高めるため、ディスクロージャー関連規程をグループ内に周知徹底することが2006年度の課題です。グループ内のイントラを活用するほか、社内研修時のプログラムに情報開示に関する事項を盛り込むことも検討し、情報開示に対する意識

の向上を図っていきます。

また、投資家主体別のIR体制の確立も課題です。国内機関投資家、外国人投資家との個別面談や個人投資家向けIRの充実などにより、日本最高のIR体制の構築を図っていきます。

ステークホルダーからのコメント

■ 大和証券グループに期待すること

大和証券グループの情報開示は、資料、コミュニケーションの両面で、業界をリードしているとの印象を持っています。情報開示でもっとも難しいのは、経営陣による、投資家との双方向コミュニケーションと考えます。法令や規則を遵守すると同時に、経営戦略、業務の状況をわかりやすく伝えるためには、個々の役員によるその場その場での的確な判断が必要です。投資家のものの見方に対する理解の深さやマネジメントチーム全体の情報開示への姿勢も影響するでしょう。このような重要な役割のあり方に、今後も改善を重ね、業界でのベストプラクティスを築かれることに期待したいです。



JPモルガン証券株式会社
株式調査部
辻野菜摘氏